

**●東京成徳大学 観光文化学科の新設**

「まちづくり」は「人づくり」…なかでも、実社会における次世代の戦力として学生を育てることの重要性は言うまでもありません。

それは「観光まちづくり」の分野においても同様です。

このたび、2010年4月から東京成徳大学人文学部に観光文化学科が新設されることになりました。

この観光文化学科の学科長に就任予定の秋山秀一教授は、弊社が従事した「茨城県観光基本計画」の策定の際にお世話になった先生です。

そこで、今回の観光文化学科新設の抱負を秋山先生に寄稿して頂きました。

なお、先生はNHKラジオ金曜旅倶楽部「旅に出ようよ」でプレゼンターとして国内各地を旅している旅行作家でもあります。

紹介者：海口晴彦（第二計画部）

「観光で“ふるさと日本”をもっと元気に」

行って楽しい旅。来てもらって有意義な観光。これを創造するのが「観光デザイン」です。

東京成徳大学の観光文化学科が目指すものは、その観光デザイン力と社会人基礎力を培うことです。旅する人の文化と、受け入れる土地の文化との接触、相互理解から「観光文化」は生まれます。

旅行者と観光地のコミュニケーションから生まれる新しい観光のスタイルをデザインし、地域の観光をプロデュースして、個性豊かな観光文化を創造すること、これがこの学科の目的です。

フィールドワークによる旅の実体験で鍛えた「観光デザイン力」と「社会人基礎力」を身につけて、「観光まちづくり」の一翼を担うことができ、幅広い分野で活躍できる人材を育てます。

<http://www.tsu.ac.jp/tourism/index.html>

<http://www.nhk.or.jp/r1/tunagaru/tabinibacknum.html>

秋山秀一（東京成徳短期大学 教授）  
（東京成徳大学 人文学部 観光文化学科 学科長就任予定）

**●ベトナムのダナンで世界一のロープウェイ**

ダナンは中部ベトナムの中心都市で、同国第4の人口を擁する町である。ダナンには、美しいビーチ、山岳高原地帯等の豊かな自然環境があり、世界遺産であるフエ、ホイアン、ミーソン遺跡群とも近く、中部地域観光の拠点となっている。

世界一のロープウェイは、高原避暑地として有名なバナ高原（標高1485m）へのアクセスとして今年3月に運航が開始されたもので、全長5042.62m（片道約18分）で単線ロープウェイとして世界最長、発着地点の高低差も1291.81mで世界最大でギネス認定も受けたとのこと。8人乗りのキャビン（料金は往復で大人10万ドン：約550円。別にソファ席で音楽、ドリンク付きの4人乗りVIPキャビンもある）に乗って、頂上側の駅に到着するとそこにはダナン市を一望できる眺望が広がっているだけでなく、肌寒いくらいの涼しい風が吹いてとても爽快であった。ロープウェイの料金は現地では高額であろうが、最近では多くの観光客が大型の観光バスで訪れるようになっている。

バナ高原はもともと19世紀初頭にフランス人の避暑地として開発された場所であるが、最近では寂れた感もあり、今回のロープウェイ導入も宿泊・娯楽施設の整備とセットで行われているようだ。せっかくの観光資源なので、ロープウェイだけを売り物にするのではなく、環境にも配慮して数日滞在したいと思えるような魅力的な観光地として欲しいと願う。

増島哲二（海外室）

●モンゴルの子供達のためのまちづくり絵本

2007年3月よりJICA開発調査「ウランバートル市都市計画マスタープラン・都市開発プログラム調査」を実施しています。日本の4倍の国土をもつ国の首都人口はたった100万人（国民総人口は250万人）と小さな街です。それでも他の途上国の都市と同様、地方部からの人口流入、交通渋滞、大気汚染や水質汚染などの環境悪化など、様々な都市問題を抱えています。ウランバートル市は社会主義時代に整備されたアパート地区が市の中心部に位置していますが、近年、インフラ未整備の土地にゲル（移動式住宅）が建ち並び、スプロール化が進んでいます。真冬の気温はマイナス30℃にもなる過酷な環境下、上水道設備がないために近くの水販売所まで歩く子供達の姿も多く見られます。

美しく堅牢な建物、緑深い山々、清らかな河川、そして抜けるような青空と、我々日本人が思い描く美しい自然のイメージの首都ウランバートルは、残念ながら急速な都市化によってその自然環境が失われつつあります。そこで、美しい街を未来の子供達に残したいという市民の声をもとに、子供向けの「まちづくり絵本」を作成しました。ゲル地区に住む少年が長老の鷲や友人達と対話するなかで、未来のまちづくりに向けた「自助・共助・公助の精神」に気づいていく、という物語です。約1万部を刷り教育現場をはじめ多様な社会施設に配布しました。我々JICA調査団も国立孤児院やNGO運営の子供センターを訪問し、絵本の読み聞かせの会を開催し、子供達と一緒に自分たちに何が出来るかを考えてきました。

日本と同様、海外の業務でも「住民参加型のまちづくり」と叫ばれています。未だに何が真の「参加」といえるのか、模索する日々が続いています。「都市マスタープラン」という数十年先のビジョンを描く仕事において、子供達と一緒に考え夢を描くことは、計画の実現可能性や持続可能性に通じるのではないかと、今回のまちづくり絵本の作成を通じて実感しました。

阿部朋子（海外室）

---

発行責任者：代表取締役 庄山 高司  
事務局：株式会社アルメック 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almec.co.jp](mailto:hotnews@almec.co.jp)  
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

---

Copyright 2009 ALMEC Corporation. All rights reserved.